

みなさんの「地域づくり」の活動を応援します

第26回

F U T U R E C R E A T I O N 2 0 2 5

中部の未来創造大賞



様々な人の
活躍・共生

防災



共助・参加型による
デザイン



イノベーションの
創出

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

SDGsの達成



自然・歴史・文化・
芸術等の魅力創出



クリエイティブな
仕事



地域の
魅力向上



ネットワークの
活用



第26回「中部の未来創造大賞」について

「中部の未来創造大賞」は、地域づくりのための活動を表彰し、新しい時代にふさわしい中部の発展とその啓発を促進しようとするものです。第26回目にあたる今回は41件の応募をいただきました。表彰委員会による審査の結果、大賞1件、優秀賞3件、特別賞2件が選考されました。本冊子は、これらの選考された活動の概要を紹介するものです。今後の地域づくりに広く役立てていただければ幸いです。

■受賞の対象

- ・ 受賞の対象は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県における地域づくりの活動や、災害時の活動、防災に関する活動で顕著な貢献が認められるもの
- ・ 地域住民やNPO、企業、学校、行政等を対象



大八まちづくり協議会



しきしまの家運営協議会



裾野市東地区おやじの会



NPO法人 MORE企画



第26回「中部の未来創造大賞」について	1
大賞	
地域情報誌制作を通じた「ひとづくり」からはじまる「まちづくり」～COLOMAGA伊豆市版【KURURA】制作活動～ KURURA制作実行委員会	3
優秀賞・中部経済連合会賞	
海洋環境保全×地域共助モデル事業 NPO法人 MORE企画	5
優秀賞	
「何もしない合宿」を通じた日常の関係づくりと地域循環の創造 裾野市東地区おやじの会	7
優秀賞	
大八防災プロジェクトspecial 大八まちづくり協議会	8
中日新聞社賞	
小さな拠点「しきしまの家」から始まる山村の未来 しきしまの家運営協議会	9
選考を終えて(表彰委員より)	10

地域情報誌制作を通じた「ひとづくり」からはじまる「まちづくり」 ～COLOMAGA伊豆市版【KURURA】制作活動～



KURURA制作実行委員会

<https://www.colomaga.jp/#contact>



「こどもローカルマガジンプロジェクト」、略して「COLOMAGA(コロマガ)」。

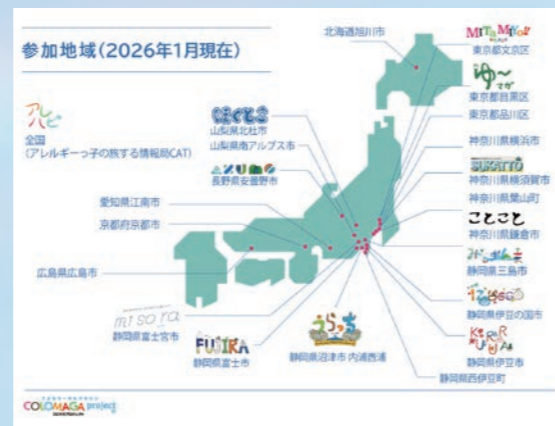
一言で言えば、「地域の小中学生が、自分たちが暮らすまちを5感を使って取材し、文章、イラスト、写真を作成。プロがデザインして地域情報誌を作成する活動」ですが、単なる情報誌制作ではなく、様々な工夫やしかけをすることで、地域の課題解決の一助となり、関わった子どもや地域に多くの影響をもたらします。

2013年に活動がスタートした静岡県伊豆市では当時「若年層の人口流出」という課題がありその根底には「シビックプライド(地域への愛着)の低さ」が伺えていましたが、この活動に参加していた子どもたちには地域愛が生まれ「将来伊豆市に住みたい・働きたい」というマインドが育っています。実際に活動初期から参加し、高校生・大学生になっても役割を変えながら参加していた子どもが伊豆市に戻って就職する事例も現れ始めました。

さらに、

- ・創造力、想像力、発信力を育む
 - ・自己肯定感、自己効力感の向上
 - ・学校と家庭以外の居場所(サードプレイス)の創出
 - ・子どもたちの活動を通じて地域の大人たちの意識も変わる
 - ・地域を知りコミュニティ、ネットワークが形成されることで防災時の備えになる
- など、多様な効果が生まれています。

また、「自分たちの地域でもやってみたい」と徐々に広がって、現在は長野、山梨、愛知、東京等全国約20地域で実施されています。さらに拡がって各地の地域課題解決の一助となれば幸いです。ご興味ある方はお声がけください。→<https://www.colomaga.jp/#contact>



COLOMAGA参加地域(2026年1月現在)

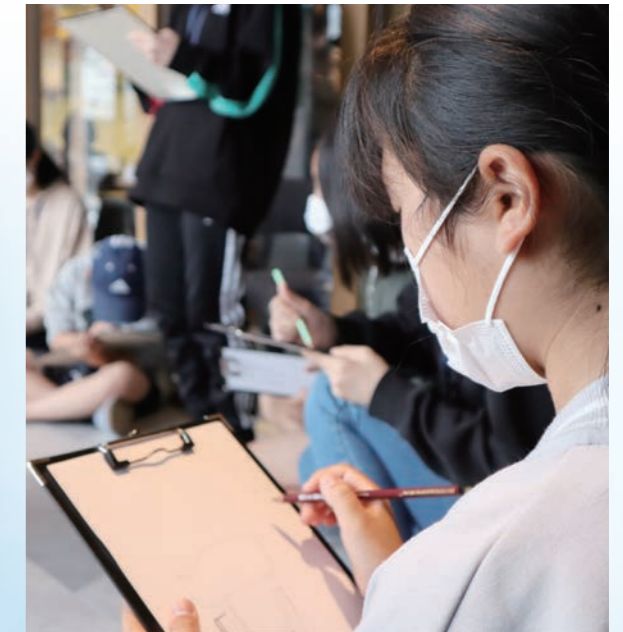


取材のためにインタビュー

修善寺温泉場で浴衣レンタルと街歩き

狩野川の自然

体験取材



プロのクリエイターたちから「伝え方」のレクチャー



KURURA完成発表会



KURURA vol.11 掲載マップ(子どもたちのアイデアと素材でプロがデザインし制作) ©KURURA制作実行委員会



NPO法人 MORE企画



NPO法人MORE企画は、「ごみと呼ばれるモノの無い世界をつくる」という理念のもと、2021年に静岡県伊東市で活動を開始しました。代表の白井をはじめとするスクーバダイバーたちが、美しい海中に沈む大量のゴミに衝撃を受け、「綺麗な海で遊びたい。次世代に美しい自然を残したい。」という思いから立ち上がりました。

私たちは、海と山が水の流れて繋がっていることを伝えながら、水中清掃、山林でのゴミ拾い、環境教育など多岐にわたる活動を展開しています。日常生活では見えない海底や山林の奥深くに蓄積したゴミを回収し、本来の処理ルートに戻す「マイナスをゼロに」する作業と、環境教育を通じてゴミを出さない社会をつくる「ゼロをプラスに」する取り組みを同時に進めています。

官民学一体となった活動が特徴で、行政、企業、教育機関、漁協、海上保安庁など260団体以上と協働し、地域全体を巻き込んだ環境保全に取り組んできました。これまでに906名のボランティアと共に16,650kgのゴミを回収し、その活動は全国テレビでも取り上げられ、PADI(世界最大のダイビング指導団体)の広告大使にも起用されるなど、対外的にも認知が広がっています。

私たちは志を一つにした多くの仲間たちと共に、少しでも綺麗で健康的な自然で遊ぶため、ごみを拾い続けてきました。これからも「私たちがなくなる未来」を目指して取り組んでまいります。



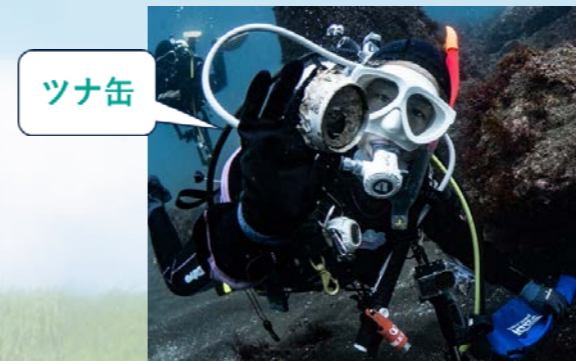
下田市との協業で行った、水中清掃。下田市グローバルCITYプロジェクトの一員として、参加しています。



山の様々な場所で、不法投棄されています。これらは、いずれ川に流れ込み、海へ入ってしまいます。



ダイバーによる水中清掃の様子



水中には様々なものが沈んでいます。海岸に打ちあがるものはごくわずかです。

「何もしない合宿」を通じた 日常の関係づくりと地域循環の創造



裾野市東地区おやじの会



私たち裾野市東地区おやじの会の活動は、「体験をさせれば子どもは育つ」という発想への違和感から始まりました。本当に大切なのは、何を体験したかよりも、どれだけ多様な人と出会い、知り合い、関係を築けたかではないか。そう考えたとき、必要なのは特別なプログラムではなく、地域の中で大人と子どもが自然に出会い続ける場だという結論に至りました。

2012年9月に始めた月1回のお泊り会「何もしない合宿」は、あえて何も用意しない場です。夕食と入浴を済ませて集まり、消灯の時間まで自由に過ごし、翌朝解散する。ただそれだけの営みを、これまで100回以上積み重ねてきました。主催者の負担を極限まで減らすことで継続を可能にし、無理のない形で続けてきたことが最大の工夫です。

続ける中で見えてきたのは、関係の力です。月1回の出会いはやがて日常の関係へととなり、同じ地域で暮らす者同士が顔と名前を知り、信頼関係を築いていきます。その関係を積み重ねることで、やがて大人になった者たちが地域活動や消防団などに主体的に関わる姿も生まれています。これは教育基本法第1条が掲げる「社会の形成者の育成」が、地域の実践として形になっている姿だと考えています。

特別なことはしていません。ただ、多様な人と出会い続ける場を守り続けているだけです。しかしその積み重ねこそが、地域が教育力を発揮する土壌づくりであり、地域づくりの土台となるのだと実感しています。



2012年から積み重ねた「何もしない合宿」は100回を超えました



泊まり慣れた子どもたちが多く、準備も片付けも全く負担が掛かりません



参加者それぞれがそれぞれの過ごしたいように過ごして良い空間です



世代や性別を超えて雑談し、知り合う機会が生み出されています

大八防災プロジェクトspecial



大八まちづくり協議会



大八まちづくり協議会は、子どもを起点に地域防災を日常化する取組を進めています。東小学校では2022年度から防災クラブを設立し、授業参観での親子防災教室や教職員向け研修も実施することで、子どもから大人まで防災意識を高めています。子どもたちは学ぶだけでなく、自分たちで考え行動し、防災を自分事として捉えています。

東山中学校では、生徒会が全校対象の防災啓発活動を展開しています。小中学生は大型防災カルタや防災ゲームの作成、シェイクアウト訓練動画などの作成にも挑戦しており、主体的に防災啓発活動を行っています。

訓練には高齢者や要配慮者も参加し、福祉・医療関係者と連携しながら、情報共有や会議を通じて課題の把握と解決策の検討を進めています。町内会加入の1555世帯中640名が登録している電子回覧板「結ネット」を活用した安否確認訓練も行っています。また、補助制度により一時避難所の備蓄や防災士取得費用の支援も進め、多様な世代や立場に応じた参加機会を確保しています。誰も取り残さないネットワークを地域内で築き上げています。

こうした活動を通じて、児童・生徒の主体性が育ち、地域ネットワークも強化されました。子どもたちの気づきや学びが地域全体に伝わることで、日常の中で防災を育む文化が根つき、世代や立場を超えて支え合う力が形成されています。今後も活動を継続し、地域全体で防災意識を高め、安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。



小学生の防災学習発表



避難所設置体験



防災まち歩き



地区防災計画ワークショップ

小さな拠点 「しきしまの家」から始まる山村の未来



しきしまの家運営協議会

<https://shikishima.org/>



人口減少・高齢化により消滅に向かう山村を、幸せな暮らしの場として次世代につなぎたい。豊田市内で最も過疎の進行が著しい世帯数315戸、人口846人の敷島自治区が、10年以上にわたる活動から導いた答えは、縮小を受け止め、住民同士が支え合い、都市とつながる新たな自治のあり方「関係自治」でした。

2010年、「しきしま♡ときめきプラン」策定を機に始まった定住対策は、10年間で40世帯の移住をもたらす目的が達成されたかに見えました。しかし、人口の奪い合いは、過疎の解決には無力でした。

2023年4月に、小さな拠点「しきしまの家」をクラウドファンディング、住民のDIYで整備、縮小社会を受け止め、住民の支え合いと関係人口を自治の主体に加える取組みは、草刈りや高齢者の移動支援など3年で500件の支え合いを生み出しました。そして、生産者と消費者がつながる米のCSA（地域支援型農業）「自給家族」は、契約者が350家族に達し、30tの米の供給、10haの農用地保全につながり、運営財源の基盤にもなっています。また、併設するレストラン「ふらっとyui」には、年間13,000人の老若男女が集い、「共食」の場として、地域内外をつなぐ新たなネットワークを生み出しています。

「しきしまの家」のキャッチフレーズは「地域の絆が都市とつながり未来を拓く」、過疎に立ち向かう全国の山村に希望とエールを送ります。



2023年4月、支え合いの拠点として「しきしまの家」が住民200名を集めてオープンした。



米のCSA「自給家族」は、23戸の農家と350世帯の消費者がつながり10haの農地を守る。



「共食」の場、レストラン「ふらっとyui」には、年間13,000人の老若男女が集う。



高齢者の移動支援は、2025年12月、公共ライドシェアとして本格スタートした。

委員長

三重大学名誉教授

渡邊 悌爾 わたなべ ていじ

中部地域の団体が、地域の持続的維持発展のために、全体して活動しておられることを喜びたい。

特に、過疎化していく見込みの中で、将来的な担い手を生み育てるため、小中学生の指導育成に成果を上げ、他地域に横展開、波及されるよう、持続的に発展されていることを評価したい。

委員

名古屋大学大学院教授

小松 尚 こまつ ひさし

中山間地域から沿岸部まで、様々な活動の展開に敬意を表したい。

特に、大学や地元の学校との連携は、教育や研究に留まらない活動次元に進展、深化していたことが印象的です。

各団体の活動のさらなる発展を大いに期待!

委員

名古屋工業大学教授

増田 理子 ますだ みちこ

本年度も地域の活性化を目指す多くの活動の応募があり、どれも甲乙付け難い取り組みでした。どの活動も参加者が長期にわたって活動を継続し、次世代を育成しながら団体を運営する例が見られ、持続可能性が感じられました。

委員

静岡県立大学教授

大久保 あかね おおくほ あかね

最終審査に残った活動は、多種多様で大変個性的なものばかりでした。また、プレゼンテーションも素晴らしく、皆様が誇りと喜びをもって活動している様子が伝わりました。たいへん楽しい審査にかかわることができて、ちょっと得をした気分です。ありがとうございました。

選考を終えて (表彰委員より)

委員

中日新聞社事業局次長

上野 充浩 うえの みつひろ

本年度の選考では、「まちづくり」や「人づくり」に根ざしたプロジェクトが際立ちました。過疎化に直面する山村において、若者らの関わりや地域住民同士で絆を育む姿には、未来を照らす確かな光を感じることができました。こうした活動が、次世代へと引き継がれ、今後さらに大きな実を結ぶことを心より願っております。

委員

(一社)中部経済連合会常務

小倉 克幸 おぐら かつゆき

人口減少に対し、関係人口の創出で地域活性化に邁進する真摯な取り組みが多く寄せられました。地域の特色を活かした地道な活動に敬意を表すと共に、その創意工夫が中部の未来を切り拓く原動力となることを期待します。

委員

国土交通省中部地方整備局 企画部長

濱田 禎 はまだ ただし

情報誌の取材を通じて、地域への愛着心を育み、地元に関わる職につく者を増加させるこのスキームは、人口減少や働き口の不足といった課題解決に向けた他地域のロールモデルとなりうる活動であり、今後も継続されることを期待します。



中部の未来創造大賞推進協議会

国土交通省中部地方整備局

名古屋市緑政土木局

独立行政法人
水資源機構 中部支社

愛知県建設局

静岡市建設局

地方共同法人
日本下水道事業団 東海総合事務所

岐阜県県土整備部

浜松市土木部

独立行政法人
都市再生機構 中部支社

三重県県土整備部

中日本高速道路株式会社 名古屋支社

一般社団法人
中部地域づくり協会

静岡県交通基盤部

名古屋高速道路公社

長野県建設部

後援：一般社団法人 中部経済連合会 / 株式会社 中日新聞社 / 公益社団法人 土木学会中部支部 / 一般社団法人 日本建設業連合会 中部支部

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部 / 一般社団法人 長野県建設業協会 / 一般社団法人 岐阜県建設業協会

一般社団法人 静岡県建設業協会 / 一般社団法人 愛知県建設業協会 / 一般社団法人 三重県建設業協会

中部の未来創造大賞では次のような活動を表彰しています。

1. 住民、NPO、企業、学校、行政等が工夫して取り組んでいる地域づくりの活動で、以下に該当するもの

- 人を惹き付け、選ばれる地域づくりをするもの
- 人が豊かに過ごせる地域を共助・参加型でデザインするもの
- 生活を楽しくする自然、歴史、文化、芸術等の魅力を感じることができる地域づくりをするもの
- 子供が生まれ、女性、若者、高齢者、外国人等様々な人材が活躍・共生できる地域づくりをするもの
- クリエイティブな仕事、イノベーションが生まれる地域づくりをするもの
- SDGsの達成など世界的課題にチャレンジする地域づくりをするもの
- ネットワークの活用で、一体となって成長し、隅々まで豊かさを供給するもの

2. 災害時の人命救助、復旧活動や防災に関するもの

第27回「中部の未来創造大賞」の募集予定

■募集期間(予定)

令和8年6月上旬～8月末（詳細は、募集開始時にホームページに掲載します。）

■応募条件

- 長野、岐阜、静岡、愛知、三重の5県内における活動を対象とします。
- 自らが参加している活動であり、特許・著作権またはプライバシー等の権利を侵害しないものに限りです。
- 資格、年齢等は問いません。
- 再応募ができます。(但し、これまでの「中部の未来創造大賞」にて大賞を受賞された活動は除きます)

■選考について(予定)

学識経験者等からなる表彰委員会により選考します。必要に応じて現地調査、面談等を行います。

■賞(予定)

- 大賞・・・1件 [賞状、盾、賞金30万円]
- 優秀賞・・・3件程度 [賞状、賞金10万円]
- 特別賞・・・中部経済連合会賞、中日新聞社賞

6月上旬
募集開始

8月末
募集締切

9月～10月
事前審査

11月～12月
現地調査

12月～1月
審査

2月
表彰式

●過去の大賞受賞活動

第19回

地域の大切な自然や環境を守る
「地球に優しいエンジニア」

静岡県立浜松城北工業高等学校・環境部



第22回

地域を超えて支え合う、
「お互いさま」が広がるプロジェクト「ヒダスケ」

岐阜県飛騨市



第24回

磯焼けからの藻場再生、維持へ
～持続可能な保全活動を目指して～

特定非営利活動法人SEA藻



FUTURE CREATION 2025

中部の未来創造大賞

主催／中部の未来創造大賞推進協議会

中部の未来創造大賞

で

検索

中部の未来創造大賞推進協議会事務局
一般社団法人 中部地域づくり協会 業務管理部

TEL (052) 962-9455

URL <https://www.ckknet.jp/project/subsidy-celebration/future-creation/>

